

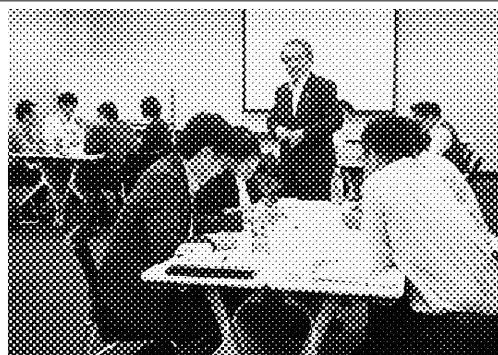
同調圧力負けぬ人材に

サノヤスHD、課長研修

サノヤスホールディングス(HD)は課長職向けに新たな研修プログラムを設けた。通常の管理職向け(マネジメント)研修ではなく、会社の将来や課題について積極的に考え、意見するための「自己効力感」を高めることを目的としたグループワークなどを実施。上田孝会長が講師を務める、対話型の研修も組み合わせた。初回は事業会社11社から50歳未満の課長職が参加。グループ間の連携を強め、組織力の底上げにつなげる。

「会長塾」歴史も学ぶ

新たな研修プログラムでは異なる事業会社のム「リフレクション」4人を1組にして「2040年」には34人が040年の組織の将来に参加し、5月から8月や自身の仕事はどうな末にかけて個別面談やグループワークを実施し、逆算して今するべきこと、グループワーク



いて意見交換した。

会社の未来や自身の

業務について積極的に

考え、意見を述べるこ

とで自分の能力や目標

達成に自信を持てる

「自己効力感」を高め

るきっかけを作る。日

会長塾では各自が意見を共有。上田会長(中央)に直接質問するなど自由闊達な議論が行われた。

▲常業務において、同調圧力による表面的な納得や受け身の姿勢をなくし、組織の活性化につなげたいと考えて。

上田会長を講師とする研修「会長塾」では、サノヤスHDが祖業の造船事業を売却した経緯のほか、同社が実践する「中小・中堅

企業連邦経営」、次世代へのメッセージなどを取り上げたテレビ番組や新聞を教材として活用。社員の質問に上田会長が直接答える場を設けた。

サノヤスHDは中堅・中小企業が寄り集まって一つとなる「中小・中堅企業連邦経営」を掲げ、現在13の事業会社を束ねる。直近10年の役員層や管理職はキャリア社員が増え、造船事業の売却後に入社した人も多い。このため、22年から会長塾など「歴史から学ぶ」(上田会長)ことを重視した次期経営者層の育成に取り組んでいる。

近年は若手の人材育成にも力を入れており、10月には26年4月入社予定の内定者を対象に25年大阪・関西万博を教材とした研修を行う予定だ。